
買わせない屋

原 始人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

買わせない屋

【Nコード】

N5152F

【作者名】

原始人

【あらすじ】

買わせない屋に勤める新入社員、恩田にふりかかる悪夢のような1日。

1話：買わせない屋とは??

「募金もあるぞと言っただろう」

野村主任は太い眉をひそめて言った。

太い眉をひそめると、柴犬みたいになるけれど、もちろん口にはしない。

いま僕は怒られている。

もう少しで、うまく初仕事を終われるところだったのに。

入社して半年。ずっと野村主任にくつついていた。それからやっと解放されて、一人で仕事を任せてもらえるようになったのに。

2

「でも募金は何かを買ったわけじゃないから……」

「お金を使わせたらダメなんだよ」

そう言って、野村主任は長いため息をつく。口臭の問題があるから、僕は二歩さがる。

おかしい話だ。

僕は買わせない屋に勤めている。

文字どおり、人にものを買わせないようにするのだ。

もちろんやみくもにするわけじゃない。ちゃんと依頼主がいて、それ相応のお金をいただいて、指定された人物がお金を使わないように妨害する。

人はとにかくお金を使う。いらないものを何度も買う。

だから、買わせない屋が存在する。

「恩田くんも村上みたいにはなりたくないだろう」

小さなオフィスに野村主任のいやらしい笑い声が響く。

僕は先輩の村上さんのことを思った。

村上さんは業績が悪かったために、とんでもない依頼の担当にされてしまった。

それは自給自足をしている人間がものを買わないよう、一年間妨害しつづけるというもの。

なんでも、疑り深い依頼主が

「あいつは本当に自給自足しているのか」と思いはじめたのがきっかけの依頼らしい。

だから、村上さんはいま新潟県の山奥に住む老人を尾行している。

あと四ヶ月も残っている。

結局、村上さんも山奥なので、自給自足をせざるを得ないらしい。

それだけは絶対にイヤだ。

そこへ電話が鳴る。野村主任が受話器を取る。

しばらくしたのち、野村主任は不適な笑みを浮かべて、僕に言った。

「恩田くん、依頼だ」

2話：依頼主とはいかなる人物か？

依頼を受けた場合、僕たちは喫茶店で依頼主に会うことになっている。

いつも指定する喫茶店は野菜喫茶という名前だった。

その野菜コーヒーが僕のお気に入りだ。

依頼主は五十代くらいの女性だった。

長い髪にはつやがあり、とてもきれいだったけれど、つりあがった目はややきつく、私の強い印象があった。

僕は緊張した。

「はじめまして。買わせない屋の恩田です」

僕が言うと、女性はドキリとした様子であたりを見まわした。

これは彼女に限ったことではなくて、

「買わせない屋」の名前を出されると、依頼主はヒヤヒヤしてしまふものらしい。

「佐藤洋子です」

と彼女は名乗り、つづけて言った。

「娘がお金を使いすぎて困ってるんです」

「娘さんの名前と年齢を教えてください」

「佐藤小百合、26歳です」

彼女のいない23歳の僕はヘンテコなスイッチがパチリと入った。

「本当に買わせない屋って、人にものを買わせないようにしてくれるんですか」

「100%の保証はできません。万が一、お金を使わせてしまった場合はそれ相応の対応をさせていただきます」

「……わかりました」

僕は野菜コーヒーを口に含んだ。

「娘さんがお金を使いすぎている原因は何だと思えますか」

「たぶん、彼氏に貢いでるんだと思います」

うらやましい、と強く思った。

「それに……」

「それに？」

「夫がリストラされたんです。だから、小百合にお金を渡せなくなってきた」

「娘さんの職業は？」

「いちおうフリーターです」

「わかりました。まずは娘さんに会わせてください。ところで、いつからいつまで買わせないようにすればいいですか」

これが重要なポイントだ。

「1日だけでけっこうです。」

それで本当に買わなければ、もう少し期間を長くしよう。そういうことってできますよね」

「もちろんです」

娘さんと会う日にちは明日の夕方と決まった。

会うと言っても、ターゲットと直接関わりあうわけではない。

ファーストコンタクトの場合は、遠くから観察するにとどめておかなければならない。

かくして、僕は娘の小百合さんを見ることとなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5152f/>

買わせない屋

2010年10月30日10時06分発行